

# ぼくたち わたしたちの 8月 みちしるべ VOL.75 ~Run to the FUTURE~



全国のみんな  
これにちは!!

海に山に川やプール、そして塾にと忙しい夏休みを過ごしていると思います。普段できない、色々な体験をして多くの思い出を作りましょう。

さて、8月13日(火)のペルセウス座流星群は月明かりもなく、日本で観察しやすい時間帯に流星が活発になることから、天気がよければ最高の条件で観察できそうです。なお、13日の前後1週間は流星が多く見られるようです。

暑い日が続きますが、帽子をかぶり水分を多く取り熱中症には気をつけましょう。色々な所へ出かけることが多いと思いますが、事故やけがにも十分注意をして、楽しい夏休みを過ごしてください!



## 夏祭りと花火

8月は夏休みで故郷に帰省したり、旅行に出かけたりする人が多いのではないでしょうか。  
そこで今回は、日本各地の夏祭りと花火大会を取り上げてみます。

帰省の起源は、「戻入り」といって、江戸時代の商家の奉公人や嫁たちが1月と7月の16日に、休日と小遣いを与えられて実家に帰る習慣にあるようです。それが太陽暦の普及と第二次大戦後の労働者の待遇改善によって、8月の夏期休暇に実家や故郷に帰る帰省として残ったという説があります。

ところで、日本の各地では、帰省の時期に合わせいろいろな夏祭りが行われています。旧暦の6月、7月の盂蘭盆会や七夕、祇園祭に由来する行事で、農村では、夏季の農作業による疲れを癒したり、病を封じたり、死者の靈を弔う行事に起源しているといわれています。しかし、現代では夏祭りに昔から行われている盆踊りや山車、祭囃子、花火大会などのほかに、キャラクターショーや歌謡ショー、マジックショーなどの夏季休暇に帰省する人たちや観光客を呼び込むイベントとしてアレンジされている場合が多くなっています。

代表的な日本の夏祭りとして、東北地方には青森県の「ねぶた祭り」、秋田県の「竿燈まつり」、山形県の「花笠まつり」、宮城県の「七夕まつり」があります。東京には、江戸三大祭の一つ、深川祭り、京都には有名な「祇園祭り」、大阪には「天神祭り」。四国の徳島県には、全国的に有名な「阿波踊り」や高知県の「よさこい祭り」、九州には「博多祇園山笠」など枚挙に暇がないほどです。



さて、夏祭りのイベントで人気を集めるのは花火大会です。今では、大きな夏祭りが行われる地方では、大きな花火大会が行われるのが通例です。このような花火大会発展の基礎になったのは、江戸時代の隅田川の花火です。当時、「鍵屋」「玉屋」の二大花火師がいて、江戸の庶民の人気を博していました。

最初の鍵屋は、名を弥兵衛といい、大和の國の出身で、1659年頃江戸の日本橋横山町に店を出し、花火を売り出したのが始めといわれています。その後將軍御用達の花火師となり、急成長したといわれています。当時の鍵屋が得意としたのは、今のおもちゃ花火の原型の五連發や七連發の筒状の花火だったようです。そして六代目鍵屋の頃から、江戸両国の川開きの花火を担当するようになり、その名を高めていったということです。

一方、玉屋は、もとは鍵屋の腕の良い番頭だったが、「のれん」わけをしてもらい分家しました。分家のとき鍵屋にお稻荷さんの宝珠の玉を貰ったことから、玉屋を名乗り、両国の川開きの折には、両国橋をはさんで川上、川下に分かれ花火の腕を競う打ち上げ花火を上げました。



江戸の庶民は、両国橋の上や川岸から「鍵屋～!」「玉屋～!」と掛け声をかけて両花火師を応援したのです。一説には、玉屋の方が人気を博すようになり、浮世絵などにも多く描かれていたということです。



両国の川開きに花火大会を行うようになったきっかけは、当時享保年間、大飢饉が起き、またイナゴの大群が農作物を襲い、全国的に大凶作になりました。疫病も流行して多くの死者が出たとのことです。そのことを重く見た幕府、八大將軍の吉宗が、その慰靈と厄除退散を祈って、隅田川で水神祭を挙行しました。そのときに花火の打ち上げも行われ、その後川開きに花火を打ち上げるのが恒例になりました。

この川開き花火に刺激をされたのが隅田川沿いに屋敷を構えている諸大名で、お抱えの火術家や砲術家に花火を作らせて打ち上げ、舟遊びの余興として楽しむようになりました。こうして両国の花火はいよいよ賑わいを見せることになったのです。

幕末の動乱期には花火どころではなく、両国の花火大会もさすがに中止されてしまいましたが、その動乱も落ち着き、明治元年に新しい時代の到来を告げる祝砲のように花火大会が再開され、多くの花火が打ち上げられました。久しぶりの両国の花火の復活とあって、多くの見物人や涼み船がで、橋も河岸も川面も人で溢れたということです。その後さらに新橋・横浜間に鉄道が開通し、今で言う臨時列車を出して両国の花火大会に見物人を運ぶようになるほどの人出になりました。

また、西洋から新しい花火も伝わり、現在のように丸く夜空に開く形のもの、スターマインという種類や新しい色の花火が開発されていました。花火師たちも互いに研究して花火を新しくしていき、その粹を競うようになってきました。

大正時代になると、花火の進化は主にその形に多く現れました。しだれ柳のように一方向に星の形に花火が飛び散るものや小さな花が夜空に一瞬に広がる花火、大きく丸く開いた花火の中に小さな花火が開くなど、どれも見物各に絶賛され、人気を博しました。まさに百花繚乱の花が夜空を彩る時代の到来です。

花火師たちの創意工夫は現代の競技花火大会に受け継がれています。日本三大競技花火大会の一つとして有名な大曲の花火大会は、東北地方の花火師の技を競う大会として始まりましたが、優勝賞金の高さから全国の花火師が参加するようになります。通商産業大臣賞などが設けられて、現在でも数多くの観光客を集めています。

このように大規模な花火大会ではなくても、日本全国各地域の夏祭りにあわせて、夏の夜空を彩る花火大会が行われているはずです。「玉屋～!」「鍵屋～!」の掛け声とともに、その歴史や時代のロマンに思いを馳せながら、見物してみてはいかがでしょうか。

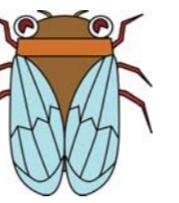


2013年8月1日発行  
発行元  
早稲田育英ゼミナール  
0120-198176  
www.wasedaikuei.co.jp

## 夏の昆虫

夏と聞いてカブトムシやクワガタムシを連想する人は多いと思います。  
でも夏は、もっと身近なところでも多くの昆虫が元気になる季節です。  
身近な夏の昆虫を、4種類だけですが紹介したいと思います。

### セミ



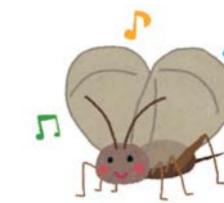
夏を代表する生き物は、セミではないでしょうか。みなさんご存知のとおり、セミは成虫になってから1週間程度で死んでしまうといわれており、寿命が短いと思われている昆虫です。でも、実際には成虫になってから1ヶ月ぐらい生きているそうです。そして、地面の下にいる幼虫の期間が種類によっては10年以上もある

という、昆虫にしてはかなり寿命の長い方になります。

幼虫で過ごす時間が長いために地表に出てくると嬉しいのではないかと思うくらいに、セミは元気いっぱい大きな声で鳴きます。ミンミンゼミ、クマゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシなど、気にしているれば何種類かのセミの声を聞くことができます。

日本には、30種以上のセミが生息していると言われています。旅先などで聞きなれないセミらしき声を聞くことがあります。ありましたら、初めて出会うセミの声かもしれません。

### 鈴虫



鈴虫は、耳に心地よい羽音で楽しませてくれると思うのはどうやら日本人だけだそうです。多くの外国の方には鈴虫の羽音は「雜音」に聞こえるそうです。

私たち日本人は、鈴虫などの虫が出す羽音（鳴き声）や日本庭園などにある「しおどし」の音、風鈴の音などに涼しさを感じることができる人種です。何百年も前の書物などにも書かれていますので、1つの国民性なのかもしれません。

「風流」とか「わびさび」とか、外国の方にはわかりにくいものが日本には多くあります。でもこれらは、私たち日本人には大切なものです。日本人だから虫の音を楽しむことができる。鈴虫は、何百年も前から日本人に飼われてきた、夏を彩る昆虫です。

### バッタ



バッタが夏の虫だというイメージを持つている人は少ないかもしれません。バッタの幼虫が出てくるのは春の終わりごろからなので、夏には元気なバッタが多くいるのです。

バッタの卵とか幼虫とか聞いてもイメージできない人が多いかもしれません。外国には成虫のまま冬を越すバッタもいるそうですが、日本のバッタはカブトムシと同じように地面の中で卵のまま冬を過ごし、春になつから幼虫になり、成虫に育っています。ただし、バッタは蛹（さなぎ）にはなりません。成虫と同じような外観の幼虫になるのです。

すごく身近な生き物なのに、バッタについて知らない人は大勢います。バッタが何を食べているのか、あなたは知っていますか？

バッタは草を食べますが、虫かごなどで飼育するときには草だけではなく、水分補給になりますのでりんごなどの果物を切ったものも少し入れてください。虫かごには土を入れ、乾燥してから霧吹きなどで湿らせるようにします。秋になると、バッタは土の中に卵を産みます。土が乾燥しないように霧吹きなどで湿らせながら、暖かい部屋の中に虫かごを置いておけば、翌年の春の終わりごろには幼虫に出会えることでしょう。



### 蛍



蛍はめったに見ることのできない昆虫だと思っている人は多くいらっしゃるようです。「蛍を呼ぶ歌にあるように、蛍というのはきれいな水の流れている場所に生息する昆虫だから、きれいな川がないから近所にはいない。」と決めてしまっている人も少なくないようです。でも、蛍を呼び戻そうと環境設備に取り組む人たちがいたり、交通量の多い道路の横にある公園になぜか自然が残った一角があつたりする場合などは、身近なところでお見かけできる場合もあります。自然を壊して家を建てることが多い中で、自然環境を整えるのはすごく大変なことだと思います。しかし、何年にもわたる活動が実り、蛍が戻ってきたという地域もあります。

何十匹もの蛍が飛び交う風景というのは、感動的であり、しばし時間を忘れてしまうものではないかと思います。蛍という小さな昆虫が、私たちに感動すら与える光景を作り出すのです。見た人はきっと、昆虫のすごさにも驚いてくれると思います。

蛍が作り出す幻想的とも言える風景を見たことのない人は、この夏、蛍情報を集めて、近くの公園などに通ってみてはいかがでしょうか。出会えるまではがっかりするどころか腹が立つくらかもしれません。でも、蛍が作り出す風景に出会えたら、きっと感動すること間違いありません。

### みんなの作文

中学2年 南品川教室  
小佐田 一さん 「数学という学問」

私は、あと少しで人生初の入試を受ける。ほとんどの人が初めてだということはわかっている。それでも、「私は自分だけが不安なのではないだろうか。」と思ってしまう。それは、プレッシャーと戦っているからである。

最近、教室では入試の話が多くなっている。その話では、大体「○○なら大丈夫。」という言葉が出る。それを言う立場の人は、褒めたり、自信をつけてあげようという気持ちなのだろう。しかし、言われる立場の人は、その言葉で、プレッシャーを与えられてしまう。私もその一人である。そのプレッシャーに押しつぶされそうで怖いのである。また、「自分だけダメだったら…。」という下向きの気持ちも出てくる。その気持ちとともに戦わなくてはならない。

でも、その二つの戦いが入試なのだろう。だから、気持ちを高く持ち、プレッシャーに勝つためにも、努力をしていきたい。

### 見えのわ

このコーナーでは、様々なクイズ・なぞなぞ等を出題します。正解者の中から抽選で、5名の方に図書カード1000円分をさし上げます。

塾長の手元にある応募用紙(アンケート用紙)に答えを記入して、塾長に提出してFAXしてもらってください。さあ、いろいろ智恵を借りながら、みんなで楽しくレッツチャレンジ!



Q.



左のマークを見て下さい。これはスウェーデンでよく見られるものです。さて、これは一体何を表すマーク(標識)でしょう?

- ① 公衆無線LAN (Wi-Fiスポット)
- ② 郵便局
- ③ 立入禁止区域
- ④ 劇場ホール (コンサート会場)

中学3年 福山駅教室  
河岡 倫加さん 「プレッシャー」